

神様が応援してくれた 52 才ばーさん

< H22 建設・道路 >

〔自己紹介〕

- ・ 52 才、地方公務員（土木職）管理職
- ・ 道路担当が長いが、30 代半ばから三セク派遣、河川担当などが挟まり道路の現場から離れてしまった。役所にいると予算、議会、地元調整、苦情処理などの仕事が多い。「技術力の低下」が言われて久しいが、少なからず「技術へのこだわり」を持っている。
- ・ 職場の若手の技術士受験に刺激され 50 才にして挑戦を決意。50 才直前のバイパス事業の経験が背中を押してくれた。昨年の一次試験は 1 回で合格できた。二次は 3 年計画のつもりで始めたが、幸運にも 1 回で合格できた。

〔勉強法〕

- ・ H P、対策本、技術資料、雑誌（日経コン）などを使った独学。
- ・ 土日を中心に勉強した。平日も家や電車内で少しでも勉強するように心がけたがなかなかむつかしい。モチベーション維持に受験体験記を読ませていただいた。

〔スケジュール〕

1 月 どんなふうに勉強をしたらよいのか、孫子の兵法ではないが「敵を知ること」から始めようと、SUKIYAKI 塾の H P や対策本（合格ライン突破ガイド、日刊建設新聞社）で、二次試験の内容、傾向と対策を自分なりに掴む。技術士制度の歴史的変遷がとても興味深く読めた。国土交通白書（2009）を購入し勉強を始める。

道路分野では、自分の経験も踏まえ、道路構造、舗装、交通安全（歩道、バリアフリー）、高速道路無料化を重点テーマにした。

2 月～

「道路構造令の解説と運用」の前半部分、「舗装設計施工指針」などを勉強。雑誌「道路」、「舗装」、「土木技術資料」、「道路建設」の関連記事など読み込む。知識がないと論文は書けないので知識の吸収に努めた。3 月下旬から 4 月末までは仕事が忙しく殆ど勉強ができなかった。

4 月 受験申込に際しては、業務経歴を書くが、これが体験論文や口頭試験と連動しているので慎重にしたい。選択科目は「道路」だが専門とする事項は、「道路設計」とした。

7 月～

必須、選択科目合計で想定論文を 10 本ほど作成した。併せてこれまでの復習をした。「骨子法」は読んだものの、合格答案がどのようなものなのか、レベルなのか知るため、応援する「合格答案実例集」を購入し参考にした。そして筆記試験当日をピークに持っていくため、筆記試験直前は夏休み 2 日 + 土曜日の 3 日間で最終調整した。

〔筆記試験〕

- ・ 自分はどうしても、1 枚（600 字）を 30 分近くかかってしまう。
- ・ 午前中の部門共通の「必須」（1800 字、2 時間半）は、骨子づくりに 40 分を目安にした。どっちにするか 5 分考えたが、これまで勉強してきた「防災・減災」を選んだ。

- ・午後の「選択」は、1問について骨子に25分、書くのに1時間20分で合計1時間45分、2問で3時間30分の時間配分を予定した。
- ・一問目は、全員必須。自分にとっては、ごく最近現場で苦労させられたテーマであり合格してくださいという問題だった。神様が応援してくれた。人生は不思議だ。
- ・二問目は舗装を第一候補にしていたが、問題を読んで今一つ自信が持てなかった。そこで交通渋滞を選択した。既存施設の有効活用には覚えがあった。
- ・共通して言えるのは、問題をよく読んで求められていることを的確に書くことである。筋立てて自分の経験、知識を具体的に書くことも大切で、抽象論だとインパクトが弱い。そのためには知識量がないと書けないということになる。
- ・時間的には、いっぱいいっぱいだったが、ほぼマスを埋めることができた。
- ・シャーペンではなく「三菱ユニのB」で書いた。うすくて細い字はマイナスと聞いたことがある。子どもの頃の憧れのブランドでゲンを担いだ。

結果発表(10/29)は、「必須」「選択」ともA判定で合格できた。もしかしたらとは思っていたが不安だった。なんとしても1回で合格したいという気になってきた。

〔体験論文〕

- ・9月初めに以前の職場に行き資料収集し、内容を思い出し整理することから始めた。
- ・書けるテーマは3つあったが、「道路設計」でエントリーしており、行政職でもあることから純技術的なものと住民参加のソフト的なものを選んだ。
- ・10月中旬には完成しており、11月は仕事が忙しかったので合格発表後すぐに提出した。

〔口頭試験〕

- ・試験日は12月5日で想定外に早かった。勉強時間がないとあせった。
- ・経歴と体験論文のプレゼン練習を家で何回かやってみた。これは大事である。
- ・本番では2つについてまずまずのプレゼンができたものの、体験論文について周辺技術知識を問われ、上手く答えられない部分がいくつかあった。経歴についての問いで忘れていた部分があり、前言をあわてて訂正したりした。
- ・技術者倫理や技術士制度については、難なく答えられた。
- ・「体系的技術知識」がすこし弱く、時間がたつほど悔やまれてきた。もっと論文内容について関連部分を含め勉強しておけばよかったと……。口頭試験は要注意である。

結果発表(3/4)は、5つの判定項目すべて「A」(60%以上)で合格できた。

もし口頭試験で落ちていたら、気持ちが続かず再受験はむづかしいと思っていた。

〔おわりに〕

- ・日々の仕事にしっかり取り組むことこそが重要です。「使い捨てにしない」は名言です。
- ・受験を通じて知識の取得や整理ができた。今ではこの過程を少しとおしく感じます。
- ・技術士になり、少しでも自信を持って行動できれば大いにプラスと思う。
- ・子ども達も50を超えたばーさんが勉強しているのを見て感じるころがあったようだ。
- ・最後に先生、上司や先輩など多くの皆さん、APECさん、家族に感謝。

以上